

第20回「市民と市長のふれあいトーク」の内容（要旨）

と き 平成27年11月12日（木）
テーマ 嚥下食（えんげしょく）を広めたい
参加者 佐藤洋子さん（野村）
中田富美さん（西下）
甲斐えみさん（野介代）

嚥下食のコンテストの全国大会で優秀賞を受賞した皆さんと市長が意見交換を行いました。



参加者 嚥下食は、食べ物を飲み込むことが難しい人のための食事です。わたしたちの病院では、6年前から嚥下食に力を入れて取り組んできました。今回、全国のコンテストに初めて出場し、ご当地グルメのホルモンうどんと地酒の嚥下食を作って優秀賞を受賞でき、とてもうれしいです。この機会に、嚥下食のことを市民の皆さんに知ってもらいたいと思っています。

市長 早くから嚥下食への問題意識を持って取り組まれて結果を出されたことは、本当に素晴らしいことだと思います。また、食事で困っている人や高齢者が集まる機会に、嚥下食のことを伝えたいですね。

参加者 病院の食事には、あまり良いイメージがありません。また、嚥下食というと、ミキサーにかけて混ぜるイメージがあります。

わたしたちが病院で作る嚥下食は、おはぎやお雑煮、マツタケご飯のような季節料理など、見た目も味も触感も、本物と同じような食事を目指して作っています。患者さんが食事を目で見て楽しむなど、五感で味わうことで食べる意欲や生きる意欲につながってほしいと願っています。また、亡くなる前に最後のワンスプーンを食べさせてあげたいという思いで、栄養士や調理師が話し合っ一つものを作り上げることもあります。

現在、介護をしている人にも、簡単な嚥下食の作り方を伝えしていきたいと思っています。

市長 皆さんが工夫をこらして提供しておられる嚥下食で、病院食のイメージも変わると思います。人生の最後に食べたいものを食べられるということは幸せですね。

本市でも嚥下食について問題意識を持っています。ヘルパーやケアマネジャーの研修などで、嚥下食について講演などをしていただきたいですね。短時間で嚥下食を作ることは難しいかもしれませんが、飲み込むことが難しい人の食事作りに、何らかのヒントになればと思っています。